



独立行政法人産業技術総合研究所は本年度から、「健康工学研究部門」を四国センター(高松市)に創設した。健康維持管理に関する技術開発を中心に、基礎的な研究から製品化に向けた研究まで一貫して展開する。部門長の吉田康一氏(47)に目的や今後の活動を聞いた。(報道部・福岡茂樹)

22.6.16

## ズームアップ

### 吉田 康一氏

産業技術総合研究所  
健康工学研究部門長

経済  
KAGAWA

手に取って色や香りを確かめたり、湯を注いで味わいや色合いをじっくり見極めた。講評によると、今年の新茶は春先の低温や日照不足のため生育が遅れたが、色

一番茶の出来栄をチェックする審査員。高松市一宮町、県農協茶流通センター



期比2・1%上昇し84・1%だった。4県の合計は、契約数が同2・7%増の318万4300件、普及率が同2・0%上昇の77・9%。内訳は、携帯電話が同2・9%

ルは、10万人に3000円分の三井住友VISAギフトカードが当たる「夏の総額3億円祭り」を実施している「写真」。対象商品は「クリア アサヒ」「アサヒ オフ」「アサヒ 麦搾り」「アサヒ ストロングオフ」のくじ付きキャンペーン6缶

## 健康産業創出へ企業と連携

## ● 四国に新しい研究拠点

「まず「健康工学」とは。吉田部門長 分かりやすく言うと、目標は「人が100歳になっても健康にいられる技術」開発に取り組むこと。工学的研究を土台に、医学、化学、物理学などの研究分野を横断的にカバーし、健康の維持管理に貢献できる技術の確立を目指している。――なぜ四国センターに開設されたのか。吉田 四国は糖尿病のほか生活習慣病の罹患率が高いというデータがあり、課題解決が地域で求められていることが一つの理由。もう一つは健康関連産業に進出したいという企業の要望が多いことを踏まえ、四国に研究拠点を設置することになった。――これからどのような研究

を手掛けるのか。吉田 例えば生活習慣病の「マーカー(生体指標)」の計測技術では、健康管理の指標として予防に役立てられるシステムを確立する。また発がん性物質を除去する技術を開発し、緊急時の浄水装置を実用化する。これらは5年以内をめどにプロトタイプ(原型)まで送り出したい。――地域産業への波及効果も見込まれる。吉田 当然、大きな目標にしている。単に研究シーズを企業に提供するだけでなく、企業と一緒に製成品化に向けた汗をかくことを研究者に求めている。研究開発以外にも、地元の企業との緊密な連携により、四国地域に健康・医療分野の産業を創出し、

根付かせていくことが一つの任務だ。もう一つ重要な役割が人材育成。企業の研究者や大学の学生を迎え、一緒に研究する体制を用意したりして、人材を増やすことにも貢献したい。――地域の中小企業でも健康産業の進出は可能か。吉田 もちろん。精密加工や部品製造のほか、システムなどさまざまな企業の技術が必要だ。昨年11月に設置した「健康ものづくり研究会」に45社が参加しており、どんなニーズがあり、技術を持っているかを収集し、技術開発に反映させる。研究に参加した結果、健康・医療とは異なる産業分野にも応用することが可能で、そうした効果も期待できると考えている。

## ● 家事代行、関西で本格展開

家事代行など生活総合支援サービスを行

● 2011年6月16日(水曜日) 12時～14時 説明会 四松サンポル 中小企業 振興施策 定員10名 問合せは同(811)

